

## I 基本計画策定の背景及び配慮事項

---

## I 基本計画策定の背景及び配慮事項

### 1. 上位計画・関連計画

計画の前提条件となる本市の主な行政計画を整理し、その中における本計画地及び本事業の位置づけを把握する。

#### ■新総合計画川崎再生フロンティアプラン

新総合計画川崎再生フロンティアプラン（平成17年3月策定）は、川崎のもつポテンシャルを十分に活かしながら、「活力とうるおいのあるまちをどのように育て、運営していくか」という視点による、市政運営や施策の基本方向を掲げる具体性を持った10年程度の計画で、3ヶ年ごとに施策の具体的な内容及び目標を明示した実行計画を定めている。基本構想においては、「誰もがいきいきと心豊かに暮らせる持続可能な市民都市かわさき」をまちづくりの基本目標として、市民本位の自治のまちづくりを進めることを基本に据え、都市としての自立と持続可能性を確かなものにするとともに、自助・共助・公助のバランスのとれた地域社会を確立することを示している。

本計画については、第3期実行計画期間（平成23年度から平成25年度）に展開する事業に位置づけられ、特に重点的・戦略的に取り組む「重点戦略プラン」としても位置づけられている。

本計画地及び本事業の具体的な位置づけは以下の通り。

#### □都市拠点の整備・・・「広域拠点」

広域拠点の整備方針：

「市外の隣接都市拠点との調和のもとに適切な機能分担を行い、地理的条件や交通機能などを踏まえ、民間活力を活かした個性と魅力にあふれた広域拠点の形成をめざす。」

#### □重点戦略プラン3・・・「総合的な子ども支援」

施策計画名：児童生徒の増加に対応した教育環境の整備

現 状：武蔵小杉駅周辺地域の小学校新設に向けた検討

事業内容・目標：2011年度～2013年度 武蔵小杉駅周辺地域の小学校新設に向けた取組の推進

→2014年度以降 事業推進

#### □基本政策Ⅲ・・・「人を育て心を育むまちづくり」

【児童生徒の増加に対応した教育環境整備の推進】（基本施策Ⅲ-2-(2)-②）

事業名：児童生徒増加対策事業

現 状：武蔵小杉駅周辺地域の小学校新設に向けた検討

事業内容・目標：2011年度～2013年度 武蔵小杉駅周辺地域の小学校新設に向けた取組の推進

→2014年度以降 事業推進

### ■かわさき教育プラン

かわさき教育プラン（平成17年3月策定）は、全ての市民が教育・学習、文化・スポーツなどの各分野にわたって、いきいきと学びあうことのできる学習社会の実現をめざし、平成17年度からの10年間を対象期間として策定された教育に関する総合計画であり、3年毎に具体的な取組みを定めている。本計画については、第3期実行計画期間（平成23年度から平成25年度）に展開する事業に位置づけられている。

本計画地及び本事業の具体的な位置づけは以下の通り。

### □重点施策5・「安全・安心で快適な教育環境を創る」

【児童生徒の増加に対応した教育環境の整備】（施策体系1-4-(4)-①）

事業名：③児童生徒の増加に対応した教育環境の整備

これまでの取組と現状：武蔵小杉駅周辺地域の学校新設に向けた検討

今後のスケジュール：H23→H25 武蔵小杉駅周辺地域の学校新設に向けた取組の推進

### ■川崎市都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想

小杉駅周辺まちづくり推進地域構想の中で計画地周辺は、「医療と文教の核」として位置づけられ、大学病院を中心に医療・福祉・教育などの機能が集積し、高度医療福祉拠点の形成を促進する地域となっている。分野別の基本方針における本計画地の位置づけは以下の通り。

#### □土地利用の方針

：複合市街地

地区計画誘導地区

#### □交通体系の方針

：補助幹線道路【東側道路】

#### □都市環境の方針

：都市景観形成地区（計画・構想）

主要な緑のネットワーク【東側道路】

回遊空間【南側道路】

広場（計画・構想）【敷地北側】

#### □都市防災の方針

：補助幹線道路【東側道路】

防火地域（計画・構想）【東側隣地】

## I 基本計画策定の背景及び配慮事項

---

### 2. 中原区の概要と周辺状況

#### (1) 中原区の概要

- ・人口 : 240,823 人
- ・面積 : 14.81 k m<sup>2</sup>
- ・世帯数 : 120,395 世帯
- ・人口密度 : 16,261 人/k m<sup>2</sup>

(※平成 26 年 3 月 1 日現在)

中原区は市のほぼ中央に位置し、区域の大部分は平坦な土地が広がっており、多摩川や二ヶ領用水の桜並木などの自然に恵まれている。等々力緑地には、Jリーグディビジョン 1 で活躍している川崎フロンターレのホームグラウンドである等々力陸上競技場があり、区内外から多くのサポーターが集まる。その他にも、市民ミュージアム、とどろきアリーナなどが整備され、本市の文化・スポーツ・レクリエーションの拠点を形成している。

一方で、武蔵小杉駅周辺では、広域的な都市拠点の形成に向けた市街地再開発事業などによる新しいまちづくりが進められており、平成 22 年 3 月の JR 横須賀線武蔵小杉駅の開業、平成 25 年 4 月の新中原図書館の開館など、都市機能の一層の充実が図られている。

### (2) 小杉駅周辺地区の開発状況

小杉駅周辺地区では、JR南武線の南側を中心としたまちづくりが進むと同時に、JR南武線の北側地区を中心とした新たな再開発計画なども明らかになっている。

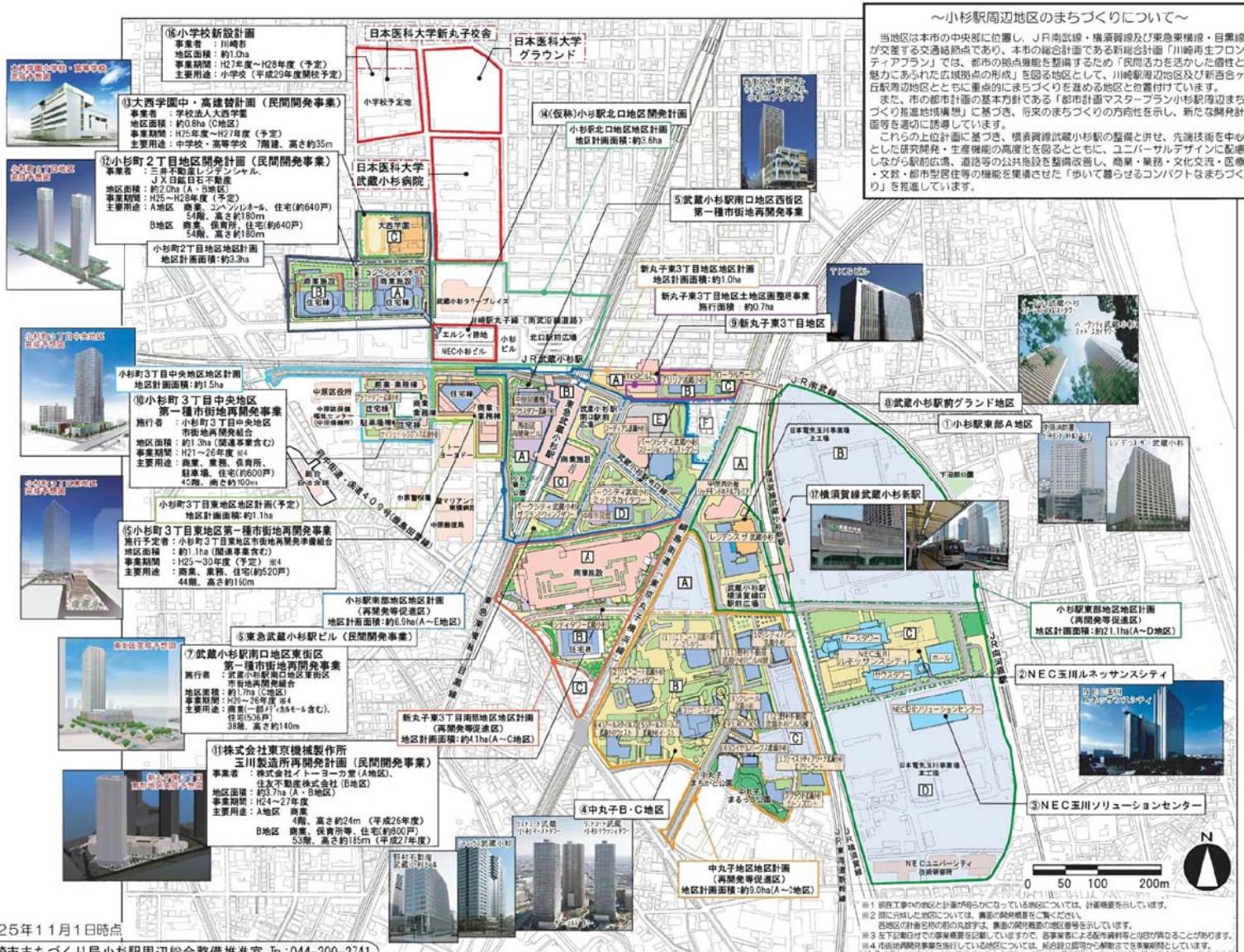
本計画地が位置する小杉駅北側地区は、駅北口の駅前広場を中心とした「にぎわい拠点」、計画中のコンベンション施設・都市型住宅や大西学園からなる「交流・文教拠点」、現日本医科大学武蔵小杉病院の跡地に計画中の「都市型住宅・福祉・商業複合拠点」、本計画の小学校と日本医科大学グラウンドの跡地に計画中の病院・教育施設からなる「医療・文教拠点」の4つの拠点と、それらをつなぐ2つの通り（センター・ストリート、コミュニティ・ストリート）を骨格にまちづくりが進められている。

また、東急武蔵小杉駅の西側には「読書のまち・かわさき」の拠点となる新中原図書館が開館し、「市民・地域・学校・大学・企業との協働」を目指し、学校図書館との連携や読書ボランティア育成の推進などが検討されている。

北側地区に計画中の各施設が災害時に担う機能としては、コンベンション施設が地域住民や帰宅困難者の一時的な受け入れ、日本医科大学武蔵小杉病院が要介護者の受け入れ、本計画の小学校は、避難者の受け入れをすると同時に、災害時には、病院との連携を行うものとして想定がされている。

次頁から、小杉駅周辺地区の主な開発計画とまちづくりの方針、小杉駅北側地区のまちづくりの方針や整備方針、周辺の景観コンセプトなどを示す。

小杉駅周辺地区の開発動向



## 小杉駅周辺地区 まちづくりの方針

参考図

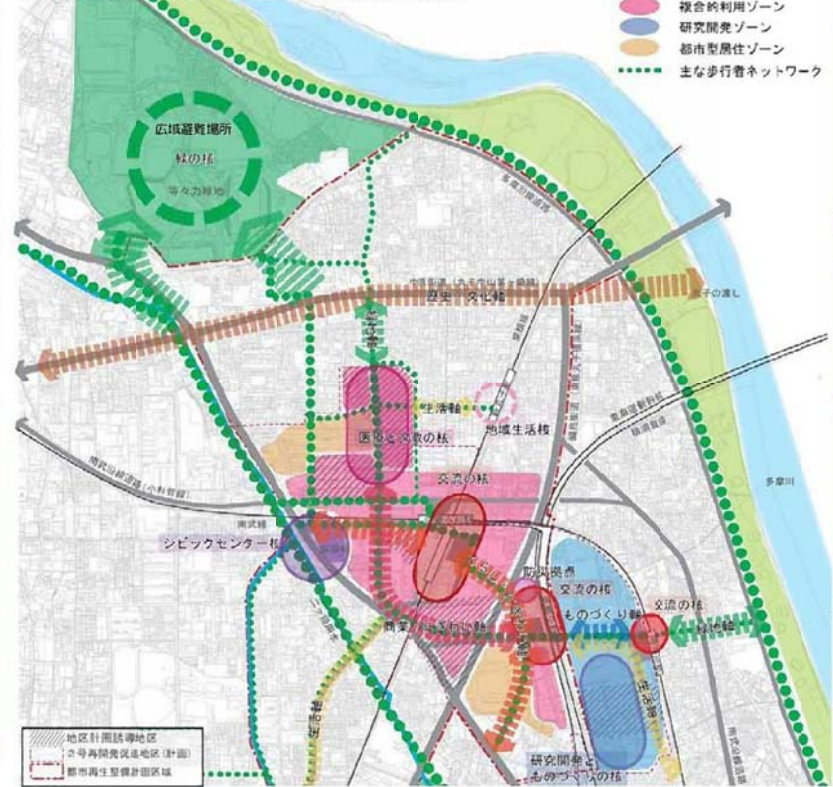
**【小杉駅周辺地区のまちづくり】**

■まちづくりの基本コンセプト  
 “交流”と“にぎわい”があふれるヒューマンなまちづくり  
 「歩いて楽しいまち」「環境共生型のまち」「豊かに暮らせるまち」

- 複合的利用ゾーン  
 ・広域的な拠点性の高い商業・業務、サービス、文化、交流、医療・福祉、居住機能が複合した市街地
- 都市型居住ゾーン  
 ・優良な都市型住宅と生活サービス、地域交流機能などが立地する地区
- 医療と文教の核  
 ・大学病院を中心に医療、教育、都市型居住、商業が複合した高度医療福祉拠点
- 商業・にぎわい軸  
 ・通りに面して開放性の高い店舗や人々が交流できる施設を連続的に配置したにぎわいのある街並み形成  
 ・沿道の店舗等と一体化した歩行者空間の形成  
 ・高層部の壁面後退による上空の開放感の創出

- まちづくりの基本方針
- ・多様な核の集積とネットワーク化による魅力ある市街地形成
  - ・駅を中心に多様な都市機能がコンパクトに集積した、歩いて暮らせるまちづくり
  - ・等々力緑地や多摩川、ニヶ領用水とのネットワーク化
  - ・緑豊かな「リクス」の実現
  - ・エリアマネジメントの推進
  - ・地区計画等の活用による官民協働のまちづくり

図 I-8 小杉駅周辺まちづくり推進地域構想将来都市構想図



- 【土地利用の方針】**  
 土地の計画的な高度利用を推進し、質の高い魅力あるまちづくりを創造
- ①複合市街地の形成によるにぎわいのあるまち
  - ②市民の文化・交流の拠点としての機能向上
  - ③多様な世帯が暮らしやすい良好な環境を備えた都市型の住宅市街地の形成
  - ④地区計画等を活用した計画的な土地利用の誘導

- 【交通体系の方針】**  
 誰もが使いやすい安全でユニバーサルなまちづくり
- ①交通広場の整備拡充や交通アクセス環境の改善
  - ②地区内の骨格となる補助幹線道路や生活道路の整備
  - ③安全で快適な歩行者空間の形成
  - ④安全で快適な自転車利用環境等の確保

- 【都市環境の方針】**  
 エコ化による持続可能なまちづくり
- ①豊かな緑をつなぐ緑のネットワークの形成
  - ②にぎわいのある街なみ形成
  - ③安全で快適なうるおいのある空間の創出
  - ④環境負荷の軽減と循環型のまちづくり

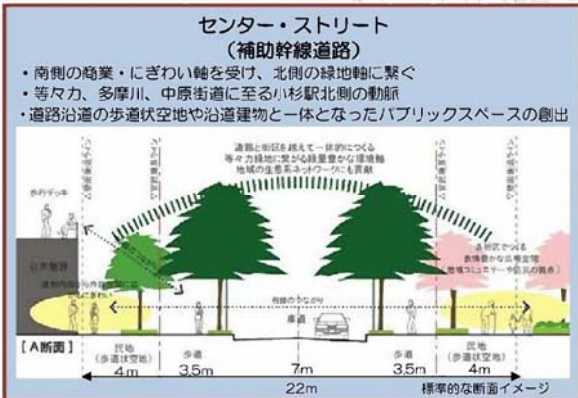
- 【都市防災の方針】**  
 災害に強いまちづくり
- ①避難地や防災空間の確保
  - ②幹線道路等における防災機能の確保
  - ③耐震化・不燃化の推進

**新たなまちづくり課題への対応** 超高齢化、人口減少が進展する中でも誰もが暮らしやすい生活環境の確保

<p><b>コンパクトな都市構造の確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医職住近接化による、高齢者や子育て支援に配慮した、歩いて暮らせる集約型のまちづくりの実現</li> </ul>	<p><b>総合的な防災力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災の教訓を踏まえた新たな防災まちづくりの推進</li> </ul>	<p><b>スマートシティに向けたまちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低炭素化、省エネルギー等、環境配慮型施設の導入、促進</li> <li>・ICTを活用した暮らしやすいまちづくり</li> </ul>
---	---	--

## 小杉駅北側地区 まちづくりの方針

- 医療と文教の核の形成
  - ・医療機能の充実、教育機能の充実
- 多様な世代が居住する優良な都市型住宅の整備
- 北側のまちの骨格形成
  - ・北側の4つの拠点とそれをつなぐ「通り」により、都市の骨格を形成
  - 4つの拠点…「医療・文教の拠点」、「交流・文教の拠点」、「にぎわいの拠点」、「都市型住宅・福祉・商業複合拠点」
  - 2つの通り…
    - センター・ストリート：等々力、多摩川に繋がる地区内の主要道路
    - コミュニティ・ストリート：地区内の主要な歩行者道路
  - ・2つの通りに沿って、うるおいある豊かな空間をつくる（広場・緑地）



- ### コミュニティ・ストリート (主な生活道路)
- ・補助幹線道路と交差し、公園と広場をネットワークする北側の散策路
  - ・北側の落ち着き空間と南側のにぎわい交流空間との境界、バッファゾーン
  - ・道路沿道の広場や公開空地と一体となった緑の空間

- ### 通りに沿った広場の適正配置
- ・うるおいと憩いの場の創出、地域交流イベントの場の創出等、2本の通りに沿って、緑豊かな広場、空地等のオープンスペースを設置
  - ・各地区の特性に配慮した広場の配置



- ### 医療・文教拠点
- ・高度医療拠点としての機能更新・強化
  - ・地域医療サービスの提供
  - ・高齢者医療・福祉の連携、小児医療環境の充実
  - ・教育機能の充実
  - ・教育機能の地域開放、文化交流の場の創出
  - ・駅から医療機能への安全な歩行者空間の整備等

- ### 都市型住宅・福祉・商業複合拠点
- ・医療と連携した高齢者に配慮した住宅の整備
  - ・人の活動が見える健康広場の整備

- ### 交流・文教拠点
- ・都市機能の集積に併せた多様な交流の場の創出
  - ・地域の交流を促進する広場の整備
  - ・うるおいと憩いのある散策広場の整備
  - ・地域の交流を促進する教育・学習機能等の導入
  - ・子育て環境の充実した住宅の整備

- ### にぎわい拠点
- ・小杉駅北側の玄関口
  - ・駅前広場の再編と駅前新たなにぎわいを創出
  - ・様々な交流・情報発信する場の創出
  - ・子育て環境の充実した住宅の整備



## 小杉駅北側地区 防災まちづくりの方針

### 【地域の防災機能を強化するエリア】

地区として耐震化、不燃化を進めるとともに、救急医療機能や避難所機能、一時的な避難スペースなどの防災機能を配置し、周辺住民が安全に、避難できる空間を確保する。

#### ●災害時の救急医療機能の確保

#### ●避難場所の確保

- ・地域住民や帰宅困難者にも対応した避難所等の整備
- ・地域向けの防災備蓄倉庫や災害時対応トイレの整備

#### ●避難路の確保

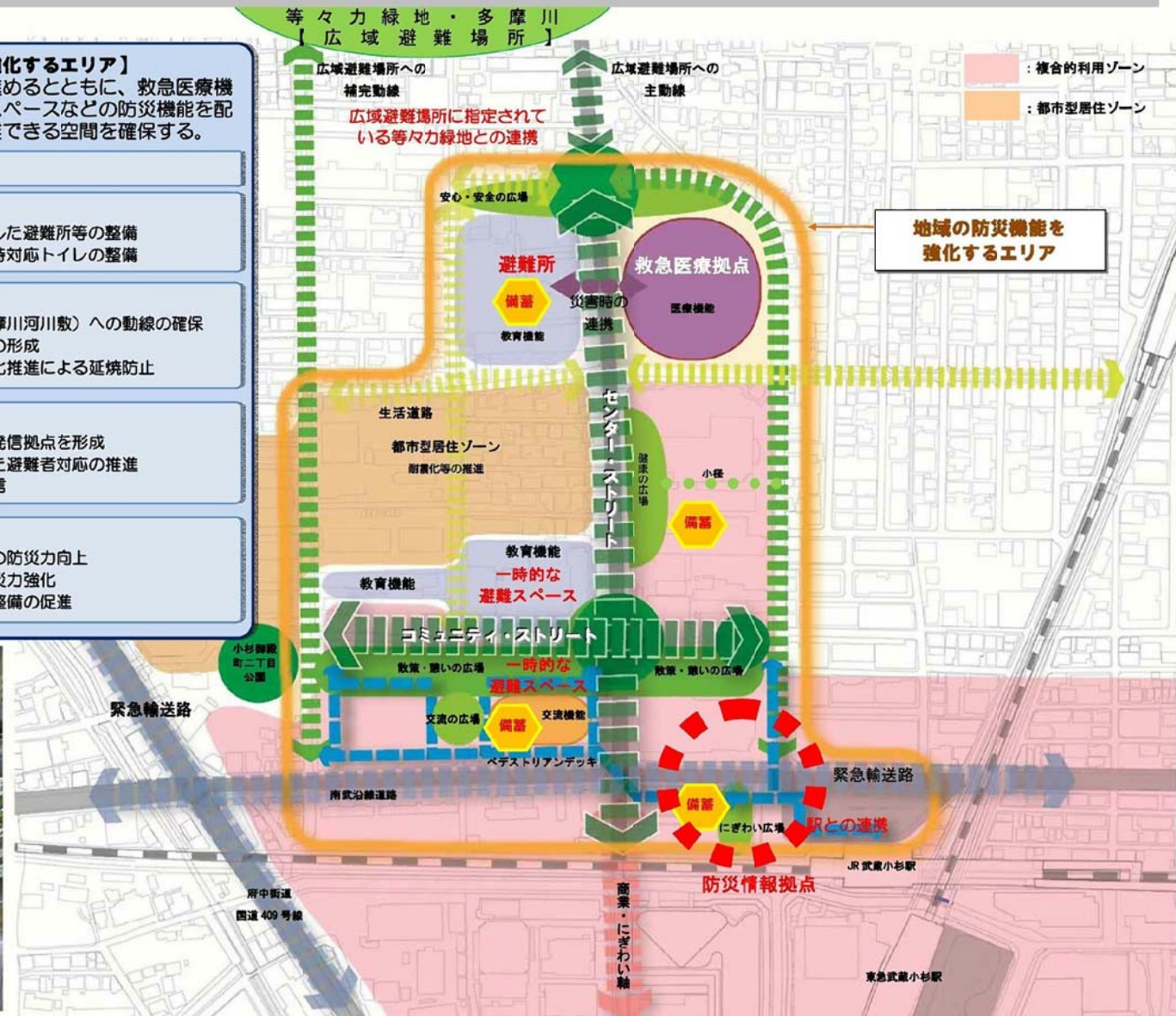
- ・広域避難場所（等々力緑地、多摩川河川敷）への動線の確保
- ・防災に資する緑のネットワークの形成
- ・道路や歩道状空地、広場等の緑化推進による延焼防止

#### ●防災情報拠点の形成

- ・駅の近接地において災害情報の発信拠点を形成
- ・小杉駅周辺の避難施設と連携した避難者対応の推進
- ・放送メディアによる防災情報発信

#### ●建物の防災力強化

- ・計画的な再開発による街区全体の防災力向上
- ・既成市街地の耐震化等による防災力強化
- ・備蓄倉庫及び防災用トイレ等の整備の促進



## 小杉駅北側地区 整備方針

### 大西学園地区

医療と文教の街にふさわしい教育機能の更新と地域開放

- 教育環境の充実
  - ・校舎の建替えによる機能更新
  - ・講堂（音楽ホール）等地域に開かれた教育機能の整備
- 防災力の向上
  - ・グラウンド等の避難場所としての活用
- 環境への配慮
  - ・建物における省エネルギー等の配慮
- 都市基盤施設の整備
  - ・補助幹線道路の整備
  - ・歩道状空地の整備による歩行者空間の確保

### コンパクトな都市構造の確立

- ・医療住近接化による、高齢者や子育て支援に配慮した、歩いて暮らせる集約型のまちづくりの実現

### 総合的な防災力の向上

- ・東日本大震災の教訓を踏まえた新たな防災まちづくりの推進

### スマートシティに向けたまちづくり

- ・低炭素化、省エネルギー等、環境配慮型施設の導入、促進
- ・ICTを活用した暮らしやすいまちづくり

### 日医大地区

高度医療福祉拠点・医療連携施設

- 医療文教の核となる高度医療福祉機能の集積
  - ・高度医療、周産期医療、高齢者医療、救命救急などの対応の強化及び認知症診断・治療機能の充実
  - ・建替えによる医療機能の更新
  - ・医療と連携する教育機能、福祉機能等の導入
  - ・医療と連携した高齢者に配慮した優良な都市型住宅の整備
- イダイ・モールと連携した商業施設の導入
- 防災力の向上
  - ・災害時の救急医療の中核となる医療施設
  - ・地域向け防災備蓄倉庫、防災用トイレの整備
  - ・建物の耐震化による防災力の向上
- 環境への配慮
  - ・等々力緑地、多摩川へ繋がる、うるおいのある緑化空間整備
  - ・建物における省エネルギー等の配慮
- 都市基盤施設の整備
  - ・地区内の道路整備
  - ・歩道状空地の整備等、歩行者空間の確保
  - ・人の活動が見える健康広場の整備

### 小杉町二丁目地区

多様な歩行者空間の形成による回遊性、交流拠点の形成

- 都市機能の集積した複合市街地の形成
  - ・駅とデッキで直結する文化交流の場の創出
  - ・コンベンション施設の導入による高度な交流機能の整備
  - ・沿道利用型の商業業務機能の導入
  - ・子育て支援に配慮した優良な都市型住宅の整備
  - ・地域交流を促進する教育・学習機能等の導入
  - ・認可保育所等の整備
  - ・地域向け集会所の整備
- 防災力の向上
  - ・コンベンション施設や広場の避難スペースとしての活用
  - ・地域向け防災備蓄倉庫、防災用トイレの整備
  - ・建物の免震化による防災力の向上
  - ・建物の防災性の向上による、建物内自立生活の確保
- 環境への配慮
  - ・うるおいと憩いのある緑化空間整備
  - ・建物における省エネルギー等の配慮
  - ・スケルトンインフィル住宅による建物の長寿命化
- 都市基盤施設の整備
  - ・地区内の道路整備
  - ・ペDESTリアンデッキの整備、歩道状空地の整備等、歩行者空間の確保
  - ・地域の交流を促進する広場の整備
  - ・うるおいと憩いのある散策広場の整備
  - ・公共的駐輪場の整備



### 小杉駅北口地区

小杉駅北側の玄関口としての都市機能強化

- 南側のまちづくりとの連携によるにぎわいの創出
  - ・商業・業務施設等の集積によるにぎわいの創出
  - ・子育て支援に配慮した優良な都市型住宅の整備
  - ・地域向け情報発信機能の導入
- 防災力の向上
  - ・災害情報等の提供
  - ・帰宅困難者対応スペースの確保
  - ・防災備蓄車等の災害対応
- 環境への配慮
  - ・にぎわい景観に配慮した緑化空間整備
  - ・建物における省エネルギー等の配慮
- 都市基盤施設の整備
  - ・地区内の道路整備
  - ・駅前広場を補完する広場空間の整備（広場状空地、屋内型広場等の整備）
  - ・ペDESTリアンデッキの整備、歩道状空地の整備等、歩行者空間の確保
  - ・公共的駐輪場の整備

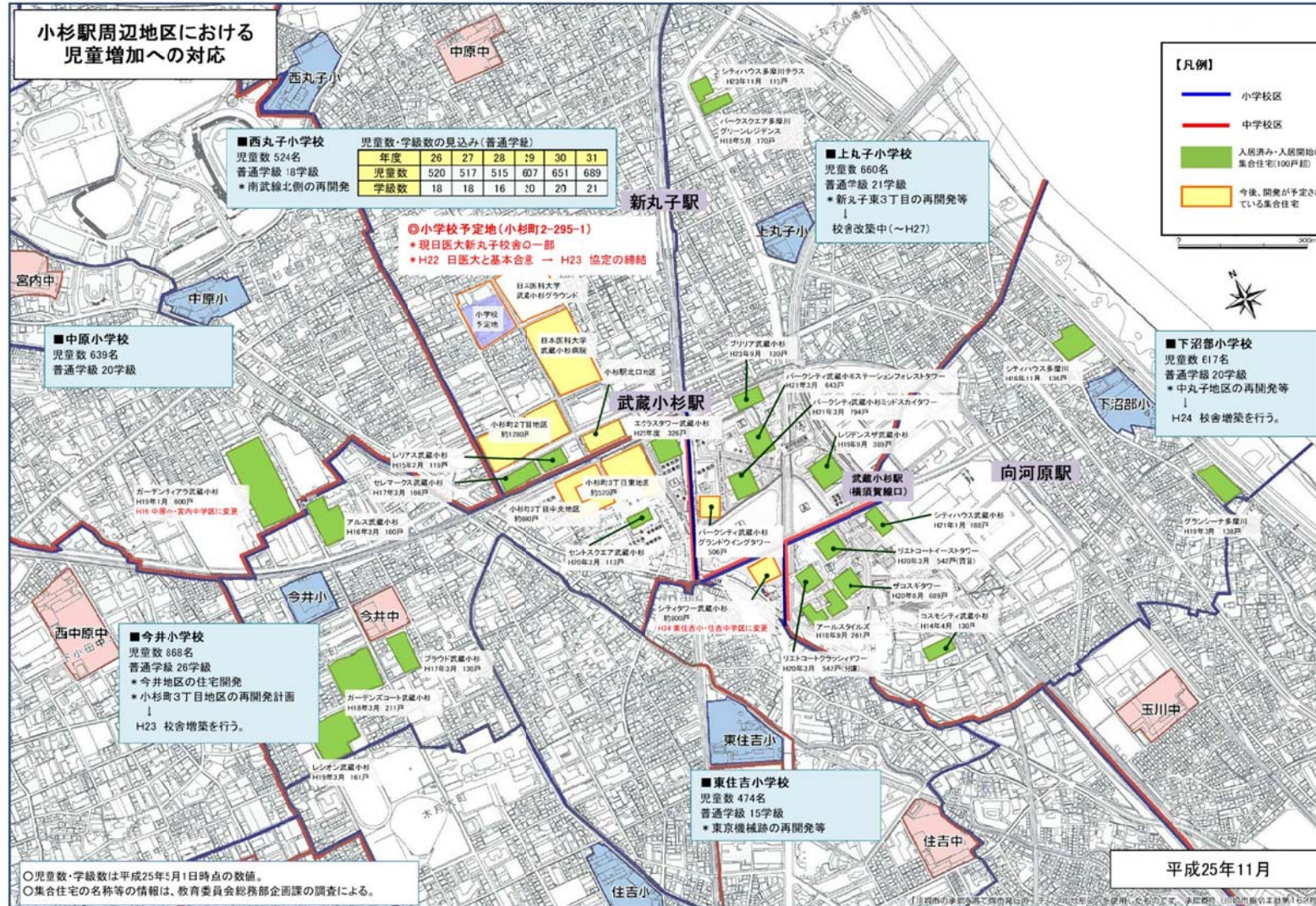
### 小杉駅北口駅前広場

小杉駅北側の玄関口

- 駅前広場機能の拡充
- ペDESTリアンデッキの整備

(3) 周辺の学校分布

小杉駅周辺地区小学校（上丸子小、西丸子小、中原小、下沼部小、東住吉小、今井小）の分布と小杉駅周辺地区の主な集合住宅の開発状況を示す。  
大規模な集合住宅の建設や駅周辺の再開発に伴い、「子育て世代」の人口流入が続いており、児童数は増加傾向にある。



### (4) 中原区役所の取組

中原区には等々力緑地、多摩川、二ヶ領用水などの豊かな自然資源の他、市民ミュージアムや川崎市平和館、国際交流センターなどの文化的な施設や、川崎市とどろきアリーナや等々力陸上競技場などのスポーツ施設も数多く存在している。これらの自然・文化・スポーツなどに関する資産を生かし、中原区では、以下のような取組が行われている。

#### ■環境事業として主に以下の取組を実施している。

- 中原区エコカフェ：川崎市、川崎フロンターレ、富士通川崎工場、川崎市公園緑地協会が構成する「CC等々力」が実施するCC等々力エコ暮らしこフェアの1エリアとして等々力緑地で環境に関して学べるイベントを開催。スターバックスコーヒーのカフェも設営。
- 環境ショーケース：中原区役所の環境配慮設備などを見学。
- 子ども環境授業：中原区の環境事業を学校で子どもたちに紹介。子どもから大人への波及効果もねらい、区民が環境に関して意識をもつきっかけとなるよう実施。  
(NEC 玉川事業場見学、富士通川崎工場見学、矢上川で遊ぶ会の出前授業)

#### ■スポーツ推進事業として主に以下の取組を実施している。

- 親子サッカードリーム教室：川崎フロンターレとの連携・協力により、1年に1回、等々力陸上競技場で中原区内に在住または在学中の小学1年生～6年生を対象に開催。
- 総合型地域スポーツクラブの育成支援：中原区内では平間小学校を拠点として活動している「平間スポーツレクリエーションクラブ」、大戸小学校を拠点として活動を行う「中原元気クラブ」がある。活動は特別活動室や体育館、校庭などで行っており、種目（内容）はヨガ、卓球、空手、テニス、キッズアートフットボール教室、キッズスポーツ、ピラティス、体操ピラティス、ラート体操教室、ダンスなど多岐にわたる。  
※ 総合型地域スポーツクラブは中原区役所で設置するものではなく、設置に際し、行政が支援を行うものである。
- アメフト・フラッグフットボールの普及・啓発：市アメフト協会や富士通、法政大学のチームと協力・連携したアメフト・フラッグフットボールの普及啓発事業。内容は年度により異なるが、近年は「フラッグフットボール大会」が行われている。
- 中原区民総ぐるみスポーツ大会：区内の小学生男女・成年女性のチームによる町内会対抗のドッジボール大会、及び、小学生以下を対象としたスポーツラリーの2本立て行事。
- 中原区民多摩川ロードレース「マイペース大会」：小学4年生以上の区内在住者を対象とした、多摩川ハーフマラソンコースを使ったマラソン大会。種目は小学生3キロ、一般5キロ、10キロ男女がある。

## I 基本計画策定の背景及び配慮事項

### ■まちづくり推進事業として主に以下の取組を実施している。

- 中原区まちづくり推進委員会「課題発見解決部会」にて下記のプロジェクトを実施。
  - ・マナー・モラルアッププロジェクト：中原区内の小中学生を対象にマナー・モラルアップを呼びかけるポスターの図案を募集。入選作品は商店街の掲示スペースや、区民祭、市民活動のつどいなどで掲示される。
  - ・公園井戸端会議プロジェクト：ボランティアが「昔遊び」（竹とんぼ、竹馬、ベーゴマ回しなど）を子どもたちに伝承し、世代間交流を図る。商店街や地域のイベントなどに参加して開催することが多い。
  - ・ミッションは落書き消し：中原区内の落書き箇所を把握し消去作業を実施。今後、小中学生の作業参加も検討する予定。
- 二ヶ領用水について
  - ・「なかはら二ヶ領用水と昭和の風景」という冊子を作成し、平成23、24、25年度の小学4年生に配布。

### ■地域コミュニティ活性化推進事業として主に以下の取組を実施している。

- ・大型マンションでは、高度なセキュリティなどから地域との交流やつながりが希薄になりやすいため、地域への関心を高めていくことなどを目的とした地域組織形成への支援や、地域との交流促進などを目的としたイベントを開催。

### ■こども・子育て支援事業の中の小学生以上の子どもを対象とした取組事例は次のとおり

#### □幼・保・小連携事業

- ◇年間計画に基づき、代表者連絡会、園長・校長連絡会、実務担当者連絡会などを実施。
  - ◇幼稚園教諭や保育園保育士向けに、小学校の授業参観を実施。
  - ◇小学校教諭の先生が保育園実習研修や幼稚園実習・幼稚園参観を実施。
  - ◇その他の取組は、各保育園・幼稚園・小学校が独自に行っている。
- 平成25年度に実施された主な連携事業は以下の通り。

- ・小学校＋近隣幼稚園・保育園
  - 「子ども文化祭」：近隣幼稚園や保育園の園児を文化祭へ招待して交流。
- ・小学校＋保育園
  - 「昔遊び交流」：1年生が園児たちに昔遊びを教えながら交流。
  - 「ようこそ〇〇小学校へ」：年長児と5年生が6名程度のグループをつくり、スタンプラリーで学校探検を行ったり、交流給食を楽しむ。

#### □子ども支援ネットワーク事業：中原区独自の取組として、就学後の子どもたちを対象に行う「中原区子ども支援ネットワーク」を平成18年から開始した。

- ◇『中原区の子ども あり方・生き方プロジェクト』（平成25年度実施内容）
  - ・夏休み「ものづくり体験」：チーム等々力と連携し、工場を見学後にメタルパッチワークづくりを体験。

## I 基本計画策定の背景及び配慮事項

---

- ・北原佐和子氏による「いのちと心の朗読会」：北原佐和子氏の朗読を通し、人を思いやり、愛することの大切さ、命の大切さを感じ、前向きに生きることの素晴らしさを共に考え、いじめや自殺が無くなることを願い開催。
- ◇『中高生プロジェクト』（公募によって決定。平成 25 年度は中原中学校・橘高校の企画を採用。）
- ・交通安全について啓発活動：交通安全のポスターを作製し、東急バス車内に掲示したり、中原警察署と連携して交通事故防止キャンペーンに参加し、交通安全の啓発活動を実施。
  - ・仙台市の中学生と交流：東日本大震災を受けて「絆委員会」を立ち上げ、仙台市の中学生と交流。千羽鶴や手作りのクリスマスツリーを仙台市の中学生にプレゼント。
  - ・なかはら子ども未来フェスタで書画ライブパフォーマンス：日々お世話になっている地域の方に高校生の若きあふれるエネルギーを感じてもらいたいと、美術部・書道部が協働して、書画を作製。

### (5) 中原区の防災組織体制

#### ■地域防災に関すること

##### 自主防災組織

地域のことは地域で守るという考えに基づき、地域住民によって組織される。日常から防災意識の高揚及び知識の向上に努めるとともに、災害時には被害を最小限に食い止めるための活動を行う。(主に各町会、自治会単位で102団体(平成26年2月末現在))

##### 自主防災組織連絡協議会

区内の各自主防災組織相互の連携を密にし、自主防災体制を充実、強化することを目的として設置する。

#### ■避難に関すること

##### 防災ネットワーク連絡会議

地域防災拠点区域内における各避難所運営会議の代表者で構成し、平常時から各避難所運営会議の活動について協議・情報交換を行うとともに、災害時には各避難所運営についての協議・情報交換などを行う。

##### 避難所運営会議

避難所ごとに区民と区役所が連携して、避難所の管理運営を行う必要があるため、自主防災組織を中心に施設管理者、PTAなどで避難所運営会議を構成し、避難所の業務について、それぞれの役割の確認や避難所開設訓練などを行う。

##### 地域防災拠点

災害発生時における災害対策の迅速、的確な対応を行うため、区内の市立中学校を地域防災拠点として位置づけており、避難者の受入・保護、応急医療・救護、情報収集・伝達、物資備蓄などの機能を持たせている。

##### 避難所

区内において、地震災害又は風水害による被害を受けた者又は被害を受けるおそれのある者が避難するところとして、避難者を一時受け入れ、保護する施設。(区内市立小中学校など)

##### 広域避難場所

地震災害及びその二次災害(火災など)により広域にわたって大きな被害が予測される場合、被害から逃れるための必要な面積を有する公園、緑地など。(多摩川緑地、等々力緑地、中原平和公園、リハビリテーション福祉センター)

##### 一時(いっとき)避難場所

災害から身の安全を図るため、一時的に避難する場所。(近くの公園など空き地及び企業や農家と協定により確保した場所)(三菱平間会館、ENEOS とどろきグラウンドなど)

### ■区の体制

#### □区本部

区内で大規模な災害が発生した場合、又は発生する恐れがある場合に区役所内に設置し、区役所の総合的な災害応急対策を推進する。

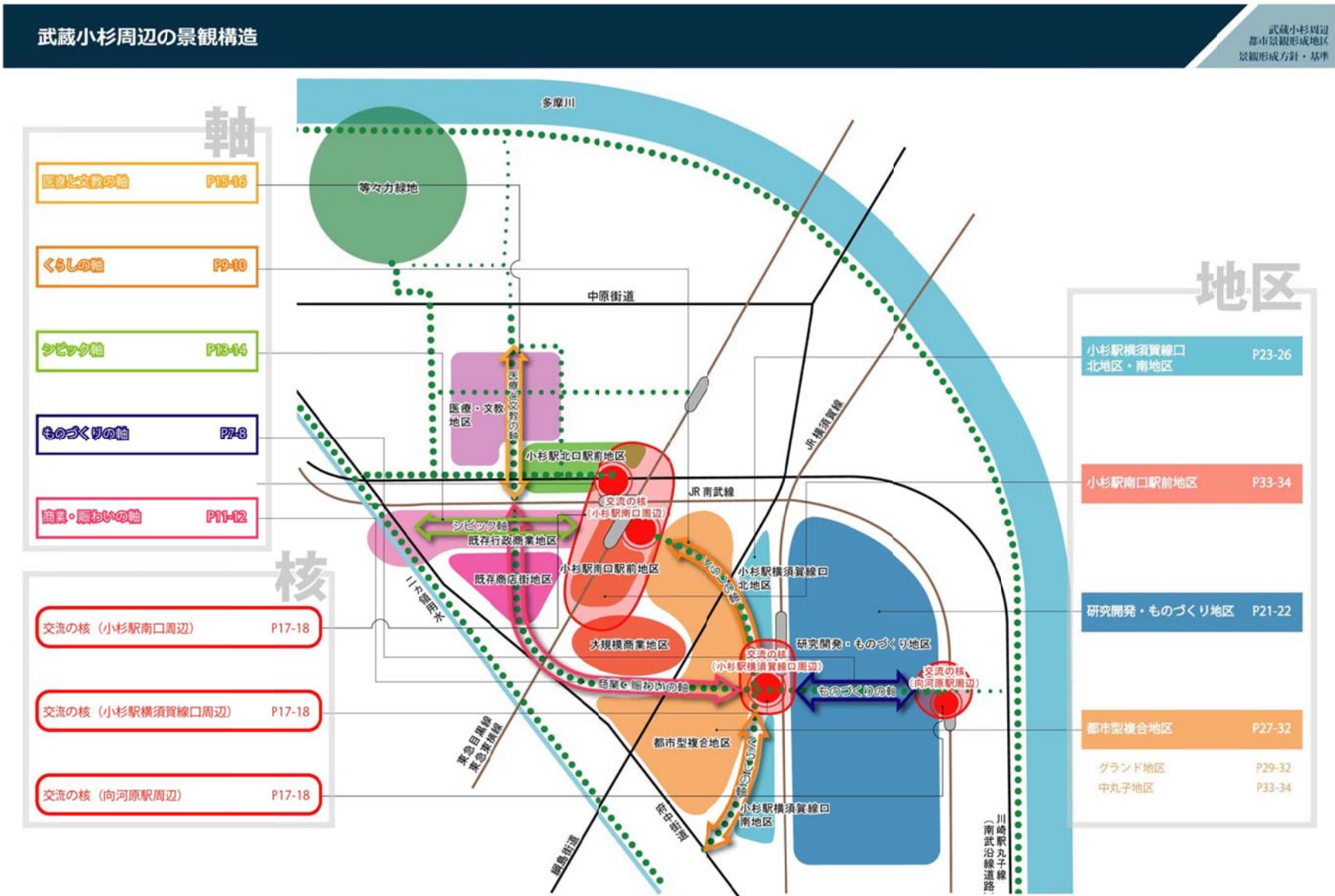
#### □中原区防災連携協議会

中原区の防災力向上に向けた取組や連携、情報の共有を図るため、区内の関係機関及び公共交通機関による中原区防災連携協議会を開催する。

現在は、帰宅困難者部会、医療・救護ネットワーク部会、地域防災部会、福祉部会、運輸・輸送部会において協議を進めている。



(6) 中原区の景観コンセプト



※「武蔵小杉駅周辺都市景観形成地区 景観形成方針・基準」より抜粋

## 「医療と文教の軸」の景観コンセプト

武蔵小杉周辺  
都市景観形成地区  
景観形成方針・基準

### 『医療と文教の軸』

目指すべき土地利用： 既成市街地における土地利用の高度化、医療・文教機能の拡充

#### 空間構成の考え方

- 医療・文教・住宅の各機能の相互の繋がりを強化する交流空間の創出
- 北口駅前の活気あるまちから、緑豊かな等々力緑地へと繋がる賑わいと緑の連携軸の創出
- 利用者にやすらぎを感じさせる潤いと憩いの空間の創出

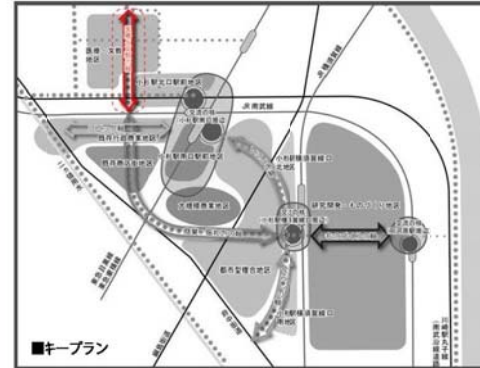
#### デザインの考え方

##### デザインのキーワード

＜潤いのある街並み＞

— 安らぎ・洗練・交流 —

「医療と文教の軸」にかかるゾーンは、治療・療養・健康といった医療機能に求められる「安らぎ」、文化性・知性といった文教機能の持つ「洗練」さ、医療・文教・住宅の各機能の「交流」を誘発するデザインを施し、＜潤いのある街並み＞をつくる。



#### 建築デザイン

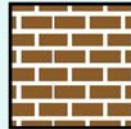


- 洗練さと暖かさを演出する多様性のあるデザイン  
高層部は明るく暖かみのある素材を用い、洗練されたデザインとする。低層部は深みと安らぎを感じさせる暖色系のアースカラーの素材を中心に用い、様々な交流を誘発する変化に富んだデザインを施す。
- 高層部と低層部を切り分けたデザイン  
建築物の高層部と低層部のデザインを切り分け、メリハリのある建築物デザインとする。高層部は、遠景・中景からのランドマーク性を強調した洗練されたデザインとする。また、低層部は、界隈性と周辺の街並みとの連続性に特に配慮し、壁面のデザインの分節化を図るなど、ヒューマンスケールな扱えとするとともに、内部の活動が見えるような開口部を多く設けるなど、賑わいを創出し、交流の促進を図るデザインとする。



#### ランドデザイン

舗装



植栽



照明



- 暖かみのあるアースカラーを  
基調としたナチュラルなデザイン  
通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、安らぎや癒しを演出する暖色系のアースカラーを基調とした自然の風合いを感じさせる舗装材を用いる。また、様々な人々が多様に利用可能な広場等を通りに面して設け、そのアクティビティが通りにしみ出し、街の賑わいと人々の交流を促すような工夫を行う。
- 変化に富んだ緑のデザイン  
通り空間の植栽は幾何学的な配置とし、等々力緑地へと繋がる緑の軸の連続性を強調し、沿道景観としての一体感を持たせる。沿道敷地内の空地等は、多様性のある森のデザインとすることで、賑わいを演出する緑の潤いと憩いの空間を創出する。
- 洗練さと安らぎが感じられるデザイン  
通り空間の照明は洗練さが感じられるシンプルで直線的なデザインとする。沿道敷地内の空地等の照明は、優しく頼みやすいデザインとするとともに、フットライトやアッパーライト、ファニチャーに内蔵した照明などを用いて、交流を促す変化に富んだデザインとする。光源は、人々に安らぎを与える色温度の低い暖かみのあるものを用いる。



※「武蔵小杉駅周辺都市景観形成地区 景観形成方針・基準」より抜粋

### 3. 近隣小中学校の取組

#### ■近隣小中学校の取組

近隣の各小中学校において行われている特色ある取組は以下の通り。

##### □上丸子小学校

- ・命のあゆみ学習：6年生を対象に年間3回実施。子育てサロンと連携し（年2回、事前学習1回）、地域のお母さんが赤ちゃんと一緒に学校などを訪れ、子どもたちと交流を行う。
- ・多摩川学習：1年生～6年生の各学年で実施。4年生はガサガサ探検で多摩川の生き物を捕獲。5年生は多摩川の水質調査、6年生は丸子の渡し体験など。
- ・高校・保育園との連携：橘高校スポーツ科の生徒が小学校の身体力テストのお手伝い。神奈川県立住吉高校チアリーディング部を文化祭に招待したり、インターシップの受け入れを行ったりしている。川崎工科高校をバザーに招待し、ミニ南武線を使った交流を行っている。また、5年生が近隣の保育園の年長児と小学校で交流を行っている。

（学校運営協議会）

- ・学習支援ティーチャー：算数・図書・書写・外国語・家庭科・理科・体育などの学習支援。
- ・キラキラバザー、キラキラステージ：バザーの収益でコンサートなどを開催し、児童、保護者、地域住民が交流を行う。

##### □西丸子小学校

- ・命の学習：1～6年生までの性教育の中に位置づけて、それぞれのテーマで実施している。1年生は自分が生まれた時の写真やお母さんから聞いた話しを発表、6年生は子育てサロンとの交流を実施するなど。
- ・多摩川学習：1・2年生は生活科の授業として多摩川で虫や植物を探し、3年生は季節の多摩川を探検する。4年生はガサガサ探検隊、5年生は多摩川的环境学習、6年生は丸子の渡し体験などを行う。学校内に「西多摩池」という池をつくり、捕まえた魚を飼育している。
- ・歯磨きタイムの実施：基本的な生活習慣の習得を目標に1日5分程度実施。歯科医による歯磨き指導も年2回実施している。
- ・小学校のグラウンドでサッカー教室をした後に、等々力競技場で川崎フロンターレの試合観戦を実施。
- ・毎週月曜日に、民生委員（5～6人）が正門に立ち挨拶運動を実施。

## I 基本計画策定の背景及び配慮事項

---

### □ 中原中学校

- ・ 命の学習：子育てサロンとの連携により、生徒と赤ちゃん、地域のお母さんが交流を行う。
- ・ 文化教室：地域の大人たちが講師となり、学校で様々な講座を開催。(木工工作、ペーパークラフト、着物着付け、パソコン、阿波踊り、太極拳など)
- ・ 金環日食観望会：地域住民や小学生を集めて日食の観望会を実施。日頃から行われている学校と地域の一連の交流成果もあり、当日は多くの児童・生徒・保護者が参加しての観望会となった。

### □ 地域教育会議

- ・ ワクワクこどもトーク：上丸子小、西丸子小の4年児童が、ガサガサ探検の意見交流を行う。
- ・ ワクワクおとなトーク：年間1回、3校（上丸子小、西丸子小、中原中）の先生と保護者が担当会場の学校の体育館などに集まり、決められたテーマに沿って意見交換を行う。

## ■ 小小・小中連携教育

区内では、小小連携や、小中学校9年間の学びの連続性を踏まえた確かな学力の育成のための小中連携教育に取り組んでいる。これにより、児童・生徒間の交流による豊かな人間性や社会性の形成、中学校入学時の不安解消などの実現を目指している。

中原中学校区における主な取組は以下の通り。

### □ 多摩川学習での連携（上丸子小・西丸子小）

- ・ 上丸子小学校近隣と西丸子小学校近隣では捕獲できる生き物が異なることなどを、両校の児童が互いに発表しあうなどの交流を実施。

### □ 児童生徒交流会（中原中・上丸子小・西丸子小）

- ・ 中学校生徒会主催による小学6年生児童全員を対象とした交流会で、中学校の体験学習や事前に希望した部活動の体験活動などを実施。

### □ 職員交流・授業公開（中原中・上丸子小・西丸子小）

- ・ 職員間の交流を目的とし、それぞれの学校での授業公開を年間3回実施し、日常的な情報交換の場として活用。

### □ 小学校での合唱指導（中原中・上丸子小・西丸子小）

- ・ 小学校の卒業式で児童が行う合唱の指導に、中学校教員（音楽科）が出向き合唱指導を行うなど、専門的な技量をもつ教員を連携校の中で共有。

## I 基本計画策定の背景及び配慮事項

---

- 地域イベントでの共演（中原中・上丸子小・西丸子小）
  - ・上丸子小と中原中吹奏楽部が小杉フェスタや日枝神社のお祭りで共に演奏。
  - ・西丸子小と中原中吹奏楽部が小杉神社のお祭りで共に演奏。
- 6年生保護者の中学校への来校（中原中・上丸子小・西丸子小）
  - ・中学校の授業参観に6年生保護者を招待することで、中学校を知る機会を提供。

## I 基本計画策定の背景及び配慮事項

- 文化祭交流（中原中・上丸子小・西丸子小）
  - ・中学校の文化祭に小学校児童の作品展示コーナーを設置。
  - ・小学校に中学校美術部の作品を展示。

### ■施設開放

市内小中学校、特別支援学校では、地域団体の生涯学習、市民活動などのため、学校教育に支障のない範囲で学校施設を開放している。

小杉駅周辺地区の各学校での開放の状況は以下の通り。

#### 近隣小中学校の開放状況

中原中学校	体育館・校庭・格技室・会議室
上丸子小学校	体育館・校庭・図書室
西丸子小学校	体育館・校庭・ミーティングルーム

#### 開放時間

##### 校庭（グラウンド）

利用可能日：土・日・祝日及び学校の休業日

利用時間：午前9時から午後5時まで夏期休業日は午後6時まで

##### 体育館（アリーナ）

利用可能日：土・日・祝日・学校の休業日及び学校教育に支障のない平日

利用時間：午前9時から午後9時まで

##### 特別教室

利用可能日：平日・土・日・祝日及び学校の休業日

利用時間：平日は午後6時から午後9時まで、その他の日は午前9時から午後9時まで

### 4. 協定締結の経緯

#### (1) 日本医科大学との協定に至る経緯

川崎市と学校法人日本医科大学は、小杉駅周辺地区の大規模かつ複数の共同住宅の建設による児童の増加に対応するため、平成 22 年 5 月に義務教育施設の設置に向け相互に協力する旨の基本合意を締結し、平成 23 年 10 月 3 日に、学校の新設に向けた取組を推進するため、基本合意の細目に係る事項について協定を締結した。

#### (2) 協定の内容

協定の主な内容は以下の通りである。

- 学校予定地：中原区小杉町二丁目 295 番 1 他  
現 日本医科大学新丸子校舎所在地の一部
- 面積：約 10,010 m<sup>2</sup>（歩道状空地約 1290 m<sup>2</sup>含む）
- 契約形態：事業用定期借地権（平成 27 年 4 月 1 日～平成 60 年 3 月 31 日（33 年間））
- 開校予定：平成 29 年度